

国連大学グローバルセミナー第8回 沖縄セッション  
グローバル化の光と影  
—私たちは他者とどうかかわるのか

# 幸せって？

## Group2

### 1. 私たちがこれからできる事

私たちは、グローバル化の光と影を考えるにあたって、まず私たちの考える“幸せ”について話し合いました。先生方の講義を聞き、討論の場で考え、人々が幸せであるための条件は個人の信条や状況によって様々であることを確認しました。その上で、私たちが考える“幸せ”からは、平和・平等・生きがいを持つ・思いやりがある・家族と一緒に暮らす・笑顔が絶えない・食があること・愛に溢れている、というキーワードが想起されました。

#### A. 平和～基地と隣り合わせの生活で幸せでしょうか

2004年8月13日、午後2:00に米軍ヘリ CH53-D型が上空を浮遊しながら羽を沖国大本館の壁にぶつけて墜落した。当時は、夏休み期間で大学内には職員・学生合わせて約100人程度の人がいた。幸い、本館には誰もいなかったため日本人の被害者は出なかった。戦闘機に機上していた米兵4人は、軽傷を負った。基地内には「緊急事態」と連絡が入っていて、ヘリが墜落する前に既に米兵が沖国大で待機していた。そのため、学長や学生などは学内へ入ることができず、警察や消防隊でさえも現場へ入ることができなかった。

墜落したヘリの破片は、200M先の住宅の壁をぶち破り、赤ん坊が寝ている部屋の隣まで飛んできた。米兵は飛び散ったヘリの破片の回収を急いだ。この戦闘機にはストロンチウムという化学物質が6個備え付けられていた。そのうち、5個は回収されたが、1個は未だ発見されていない。そのため、本館周辺の土はすべて米兵が回収した。墜落した理由は、戦闘機自体が古いにも関わらず、点検を怠り、部品が欠けていた結果である。普天間の人々が平和に暮らせる日は、いつになるのでしょうか…。

#### B. 生きがい～皆さんの生きがいは何ですか

私達は夢や目標のある生活、生きがいのある人生は幸せだと私達は考えました。

しかし、世界にはここにいる私達が当然のように持っている生きがいをもてない人々がたくさんいます。グローバルセミナーの中だけでも様々な事例を学びました。発展途上国では、家族を助けるために幼いうちから働く子供達には、自分自身の可能性を知る機会がありません。将来を選択することができません。そもそも、「生きがい」そのものを考える事ができません。

一方では先進国で生活していても、生きがいを見つけられない人が増えてきています。多様化する世界でより多くの人々が生きがいを感じられるようにするには、どのような事ができるでしょう？

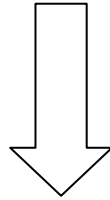
## C. 平等・思いやり～「平等」や「思いやり」は実現されているのでしょうか

現在様々な場面で「平等」・「思いやり」という言葉が主張されています。皆さんの中でこの言葉を聞いたことがない人はきっといないでしょう。

今回のセミナーの中で挙げられていた家事労働者についてはどうでしょう？例えば、台湾の家事労働者にはこんな事例がありました。Marryさんは10月から翌年4月まで、休みは一日もなく、外出することは全くできませんでした。雇い主の帰宅時に、一度でも迎えに行くことができなかった場合、ひどい言葉で罵られました。半年間で給料も一度しかもらえず、精神的に衰弱してしまいました。

この雇い主の行動を皆さんはどう考えますか？講義の中で「代理家族」という言葉で表現されていたような平等な職場、思いやりのある接し方はどうやったら実現できるのでしょうか？

上の三つを含むこれらのキーワードを全ての人々が感じられる世界であるために



### 2. 私たちがこれからできる事

世界中の幸せを増やしていくために、

**私たちが今から出来ること**

**これから意識していきたいこと**

についてディスカッションを重ねました。

私たちがこの4日間のセミナーで学び育んだもの、そして今後へ繋げて行きたいと考えたこと、それらを向日葵の成長のストーリーに置き換えて伝えます。

グローバルセミナーは私たちがテーマを考える上での出発点になりました(種)。その種を育てるには、

他者への愛の心、協力精神

現状を嘆くだけで終わらない、あきらめない

教育の本質を理解し、プラス面を押し出す

適度な情報の取捨選択

が最も重要であると思います。これらを意識し続けることが、自分も他の人々も共に“幸せ”が訪れる近道だと思います。

この4日間が貴重な気付きの場であったことを認識し、出来ることは行動に移すこと、そして身近なところに伝えていって頂きたいというのが、私たちの一番のメッセージです。

